

2017年11月17日

各位

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が
独立行政法人として初めて発行するグリーンボンドの引受けについて

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社（取締役社長 長岡 孝、以下当社）は、このたび、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下鉄道・運輸機構）が独立行政法人として初めて発行するグリーンボンド⁽¹⁾（第109回債、10年債200億円）の引受けにおいて主幹事を務め、本日、本グリーンボンドの条件を決定した旨を公表しましたことをお知らせします。

鉄道・運輸機構は、広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化、鉄道の利便性向上を図るとともに、CO₂排出量の少ない環境にやさしい交通体系の整備を推進しています。本グリーンボンドは「神奈川東部方面線」（相鉄・JR直通線及び相鉄・東急直通線⁽²⁾）の建設を資金使途としており、バスや自動車から同路線に旅客が転移することによるCO₂及びNO_x排出量削減等の環境改善効果が見込まれます。また、本グリーンボンドは環境省が募集する「平成29年度グリーンボンド発行モデル創出事業に係るモデル発行事例」として採択されており、環境省グリーンボンドガイドライン2017年版⁽³⁾への適合性を確認したモデル発行事例として初のグリーンボンドとなります。

当社は、金融機関として果たすべき社会的使命を自覚し、持続可能な社会の実現に貢献するための取組みを積極的に推進しており、環境分野においてもグリーンボンドの引受けをはじめ、炭素クレジットやクリーンエネルギービジネスにおけるコンサルティングサービスの提供、社内の省エネ・省資源施策等を実施しています。

2006年に国連責任投資原則(PRI: Principles for Responsible Investment)が制定されて以来、世界のESG投資⁽⁴⁾が拡大していることを受けて、資金使途を環境対策事業とするグリーンボンドや社会貢献事業とするソーシャルボンド、両方の特性を有するサステナビリティボンド等の発行は増加傾向にあります。引き続き、当社は責任ある証券会社としての責務を果たし、環境や社会との共生、経済・企業との安定的な成長共有の観点から、ESGをテーマとした債券の引受けを一層推進するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

(本グリーンボンドの概要)

債券名： 第109回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券

取得格付： AA (株式会社格付投資情報センター)、
A1 (ムーディーズ・ジャパン株式会社)

年限： 10年 (2027年11月26日償還)

発行総額： 200億円

利率： 0.230%/年

発行日： 2017年11月28日

主幹事： みずほ証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、野村証券、大和証券

- (1) グリーンボンドは、法人や地方自治体等が、再生可能エネルギー事業等、地球温暖化をはじめとした環境問題の解決に資する事業に要する資金を調達するために発行する債券。
- (2) 相鉄・JR直通線は、相鉄本線西谷駅～JR東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近までの連絡線(約2.7km)、相鉄・東急直通線はJR東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近～東急東横線日吉駅までの連絡線(約10.0km)を指す。
- (3) 環境省グリーンボンドガイドライン2017年版は、国際的に広く認知されている国際資本市場協会(ICMA: International Capital Market Association)のグリーンボンド原則(GBP: Green Bond Principles)との整合性に配慮しつつ、発行体、投資家その他の市場関係者の実務担当者の参考になること及びグリーンボンドを国内でさらに普及させることを目的に、環境省が2017年3月に策定・公表したガイドラインであり、グリーンボンドとして必要な要件等の解釈が示されている。
- (4) ESG投資は、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の英語の頭文字を合わせた言葉であり、これらの要素に配慮している企業を重視・選別して行う投資のこと。

以上